授業科目名・形態	介護実習Ⅲ　　実習	必修・選択の別	選択	単位数	3
科目担当者氏名	石岡和志　柴田博　今野修	実務経験の有無	有	開講期	２年後期
科目ナンバリング	W6-2007c				

【授業の主題】

地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。また、本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。介護実習Ⅲは、介護実習Ⅱで行った実習施設での継続実習となるため、業務を円滑に進め、早期に個別援助計画に着手するよう指導する。

介護総合演習Ⅲでの学習を踏まえて、個別ケアを行なうために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他の科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

【到達目標】

1）対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学び取る。
2）ICF に基づいた活動・参加の視点から支援の内容およびその必要について理解し、個別介護計画の作成・実施ができる。
3）他職種とのチームアプローチの実際と必要性を理解する。また、実習の総仕上げとして、介護業務の本質と介護福祉士の果たすべき役割について説明できるようになる。

【授業計画・内容】

１．施設・在宅福祉の機能と介護福祉士の役割を理解する。
　1）施設や組織の全体的な仕組みや業務の流れを理解する。
　2）他職種の業務や相互の連携について学習する。
　3）施設の在宅支援について実践を通じて学習する。
２．個別介護過程展開の実際を学ぶ。
　1）「尊厳を支えるケア」「個別ケア」における介護実践の根拠を理解し、個別介護過程展開の実際を学ぶ。
３．生活支援技術を習得する。
　1）再度、基礎的な部分を中心に介護業務を実践する。
　2）医学的健康管理やリハビリテーションについて学習する。
　3）利用者を取り巻く住生活設備や福祉機器に対する学習を深める。
　4）利用者の行動障害や疾病に対応した援助について学習する。

【授業実施方法】

実習形式で行う。

【事前・事後学習】

・介護総合演習Ⅲで学んだことを中心に 30 分の予習及び実習内容を踏まえた 30 分の復習を行うこと。
・介護総合演習Ⅲで計画した実習の事前準備を確実に実行すること。

【関連する主な科目】介護の基本、介護総合演習、介護過程

【教科書等】最新・介護福祉士養成講座 10　介護総合演習・介護実習　第 2 版　中央法規出版

【参考文献】泉順：介護実習への挑戦、ミネルヴァ書房

【成績評価方法】

実習記録 50%、実習内容 50%とし総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

福祉施設で介護職員として介護業務を経験してきた。介護の現場で経験を活かし、個別介護計画に基づいた実践的な介護が展開できるように指導していきたい。

【学生へのメッセージ】

日々の実習目標を適切に設定し、介護の総仕上げの認識を念頭に置いて積極的に取り組んでほしい。